

## 駒ヶ根市文化財

名称	野村家の地蔵菩薩像
種別	美術工芸品(彫刻)
指定	市・有形文化財(平成 29・7・25)
所在地	中沢
所有者	野村家
説明	<p>野村家が古くから家の守り本尊として護持してきた木造地蔵菩薩像である。個人所持の内仏としては大きなものといえる。</p> <p>地蔵菩薩は一般の僧侶の姿をし、錫杖(しゃくじょう)を突いて迷いの世界を尋ね回って庶民の苦しみを救済するという。野村家の地蔵菩薩像は、底辺八角の蓮弁付台座の上に立ち、総長 96cm、面長 12cm、面幅 12cm、輪光背の直径 35cm、左手に宝珠を乗せ右手は錫杖を突いている。材質はヒノキ、寄木造で彩色はない。左足の先が欠けており像全体に火災にあった形跡も見られる。台座は後世の作と推定されるが、仏像全体から受ける印象は、頭部が割合に高く伏眼で静観しており、刻みの深い刀法を用いて衣紋の切れ味が良い。年代としては鎌倉末期の作という説が有力である。右手に持つ鉄製錫杖は総長 94.5cm、先端部に九輪の形を施すなど、時代が更に古いのかも知れない。野村家地蔵堂はもと上割百々目木(どどめき)にあったが、無宿人の失火により堂が焼失、昭和 9 年(1934)、現在地に地蔵堂を再建し像を遷座、現在に至っている。現在地蔵堂内(間口 2 間、奥行 3 間)には地蔵菩薩像を納めた九尺四方の堂があり、移転当時鎌倉某寺の経堂を買い求めたものであったという。この時、錫杖も鎌倉で求めて補ったらしいとも聞いているが、いずれにしても像は中央仏師の手になるものに間違いなく、洗練された簡素な美しさは人の心をうつものがある。首に補修の痕跡がみられる。</p>



野村家 地蔵菩薩像